

OED Online でみた複合形容詞について

Compound Adjectives on *Oxford English Dictionary Online*

西部真由美

NISHIBU Mayumi

愛知大学国際コミュニケーション学部

Faculty of International Communication, Aichi University

E-mail: mnishibu@vega.aichi-u.ac.jp

Abstract

This study aims to describe how *Oxford English Dictionary (OED) Online* can be utilized for the study of English compound adjectives. *OED Online* provides the *OED 3rd* edition, an authoritative English dictionary in ongoing revision, and the search engine with various functions. This online dictionary enables us to make the lists of compound adjectives in the entries of the *OED 3rd* edition, as well as to compare their descriptions in the old edition, *OED 2nd* with in the new edition.

1. *Oxford English Dictionary Online* の概要

複合形容詞 (compound adjectives) とは、2 つ以上の語 (基) で構成されている形容詞の働きをする複合語のことである。先行研究 (西部: 2015a, 2015b) では、*British National Corpus (BNC)* を使用し、頻出する複合形容詞を抽出して、英英辞典と英和辞典での記載状況を分析した。本稿では新たに、*Oxford English Dictionary (OED)* の第3版を提供する *Oxford English Dictionary Online* を使用し、このオンライン版の英語辞典で複合形容詞に関してどのような分析が可能であり、いかなる記載がされているか探求をしていく。

まず、*OED Online* に関して簡単に述べておく。*OED* は世界で最も権威があり包括的な英語大辞典として広く認識されている。この辞典では、語や語句の語源、文献での初出年、文献からの用例、厳密な語義など、英語に関する最も豊富な情報が網羅されている。初版は段階的に刊行され、完全版の全10巻は1928年に刊行された。第2版 (*OED2*)

は1989年に20巻で刊行され、1993年から1997年の間に補遺編3巻が加えられて、CD-ROM版も1992年に作成された。また2000年からは第3版(OED3)の編纂が始まり、オンライン版で利用可能となっている。OED3では辞典の記載事項を表示するだけでなく、検索ツールや歴史類義語辞典(Historical Thesaurus of the OED)へのリンク、OED2へのリンクなど、付加機能も多く盛り込まれている。OED2は、第1版に加筆修正し編纂されたが、OED3では全面改訂がなされ、膨大な予算(3400万ポンド)と多くの専門家から成るチームで取り組む一大プロジェクトとなっている。紙面に換算すると40巻程度になり、2018年の現在も改訂作業が進行中で、紙面の刊行予定は当面はないと言われている。改訂作業は、OED2の全項目を再検討し、語源の再確認・発音表示の修正・語義の修正・見出し語の追加修正・用例の再検討・英国以外の英語の語彙の収録など、現代の英語データベースも参考資料に使用したこれまでにない大規模なものになっている(OUP: 2018d)。次の表1は、OED2とOED Onlineの詳細をまとめたものである。

OED3は毎年4回更新され、作業の進捗状況は表1の下半分にまとめた通りである。作業開始時はOED2のmで始まる見出し語の項目から修正・加筆が行われ、2012年以降は、毎回のテーマを決めたり、詳細な記述が必要な語を選定したりして作業が行われている。2013年以降は、およそ毎年2000語程度の見出し語が新しく追加されている。

表1 OED2とOED Online(2018年12月現在)

	サイズ	価格 発行元	主な機能
OED2 (1989)	見出し語 291,500 見出し語+小見出し語 615,100 引用例 2,436,600	書籍 20巻+3巻 £ 845.0, Clarendon Press	辞典 (見出し語、発音、語源、語義、初出年、引用例)
OED Online (2000-2018 12月現在)	現在増加中、年4回更新 (OED2の2倍程度になる見込み)	£ 215.0(年間使用料) http://www.oed.com/	辞典本体、検索ツール、歴史類義語辞典とOED2へのリンク
	＜進捗状況＞主な作業(OUP: 2018e)		
	2000年 項目・見出し語修正 (mで始まる語) 2003年 (nで始まる語) 2004年 (n, oで始まる語) 2005年 (pで始まる語) 2007年 (p, qで始まる語) 2008年 (rで始まる語) 2011年 102,133項目改訂終了 (全体の37%) 2012年 (sで始まる語) 交通・感染に関する語	2013年 1947見出し語追加、技術・ポップカルチャー・時事に関する語、blue, head, hand, heart, she, he, it, theyの項目 2014年 約2000見出し語追加、第1次世界大戦に関する語 2015年 約2000見出し語追加 2016年 約2000見出し語追加、香港シンガポール英語の語彙・記述追加 2017年 約2100以上見出し語追加、カナダに関する語彙・記述追加 2018年 約3600見出し語追加、ウェールズ語(借用語)に発音記号追加	

OED2 が CD-ROM になり、パソコン上で検索語を打ち込めばその項目が画面に表示され、もはや 20 数巻のページを探す必要はなくなった。さらに、2000 年以降現在まで進化中の OED3 は、辞典というよりはむしろデータベースに近い画期的なものになっている。使用料が年間 3 万円以上で高額ではあるものの、検索機能が言語コーパス並みになり、従来型の quick search の検索だけでなく、advanced search を使えば検索語の詳細な条件指定が可能となる。

この検索ツールでは、辞書の項目の範囲を指定して語を検索できる。選択肢は、Full text (全体), Headword (見出し語), Lemma (レマ = 基本形), Variant spelling (異綴り), Definitions (語義), Etymology (語源), Labels (語彙情報), Quotations (引用例) となっており、自分の見たい箇所に焦点を絞ることが出来る。Labels (語彙情報) とは、見出し語の後に付加的に記載されている短縮形や使用地域、学術分野、「俗語・方言」、「集合名詞・複数形」などの文法機能、「婉曲表現」などの簡潔な情報を指す。さらに、フィルターで検索条件を絞ることができ、Language of origin (語源の言語), Usage (使用法), Region (使用地域), Subject (分野), Date of entry (初出年), Part of speech (品詞) などで別々に指定できる。なお、Usage (使用法) とは、「皮肉的に」・「軽蔑的な」などの使われ方に関する記載を指す。そして最も便利な点は、ワイルドカード検索が可能であり、検索結果がアルファベット順、頻度順、初出年順の 3 通りで選択できることである。

見出し語の記載の画面の右側には、改訂作業の「完了」とその年、又は「未完」が表示され、その下には word profile と word history という項目がある。word profile をクリックすれば、その語の初出年、語の意味別の使用期間がグラフで示される。word history では、OED の旧版から OED3 でその見出し語の記述がどう変わったのかを概略することができ、OED2 の記載を実際に見られるようにリンクが張ってある。複合形容詞は、どこまでを一語と認定するか否かで言語学上の扱いが難しく、OED2 と OED3 では扱いがかなり変化しているため、比較研究をするには、この機能は大変効率的である。

2. 見出し語の複合形容詞：頻度と初出年

2.1 OED Online における語の頻度表示

OED3 では、見出し語に頻度が記載されている。OED2 では頻度表示は無く、新しく加えられたものである。OED Online のウェブサイトにある Key to frequency (OUP: 2018c) によれば、頻度は主に Google Books Ngrams, ver.2 を基準にして、他のコーパスとも比較しながら決定されている。1970 年以降現在までのデータで頻度を算出しており、廃語(今は使われない語)には頻度は示されていない。頻度はレマで算出されており、異なる綴りやハイフンの有無にもかかわらず同一の項目として扱われている。頻度は赤色の星の数(1

から 8) で示され、8 が最も頻度が高く 1 が低い。

百万語当たりの頻度に換算すると、1000 回以上の頻度を持つものが★ 8 個 (*OED3* の見出し語の約 0.02% が該当)、以降 10 分の 1 の割合で頻度の度合いが下がる。この頻度で現れる語の例は、冠詞や代名詞、前置詞、接続詞 (a, an, the, this, that, of, to, in, on, from, and, but, etc.) や、一般的な動詞 (have, do, make, take, etc.)、助動詞 (may, can, will, etc.)、数量詞 (all, some, more, one) である。

★ 7 個は 100-999 回 (約 0.18%) で、語の例は man, person, hand, eye, year, day, animal, tree, good, right などである。★ 6 個は 10-99 回 (約 1.0%) で、語の例は red, green, Canadian, Christian, democracy, capitalism などである。★ 8 から 6 までは比較的に日常的な文脈で目にする馴染みのある語彙である。

★ 5 個は 1-9.9 回 (約 4%) となり、文学的な語彙や教養的な文脈で使われる語彙が多くなる。この区分に含まれる語は assimilation, paraphrase, appropriate, jeopardize, functionally, Marxist, Freudian などである。★ 4 個は 0.1-0.99 回 (約 11%) で、さらに日常的ではない語となるが、それでもまだ母語話者には認識できる語で、小説や報道で見かける語である。例として nutshell, candlestick, astrological, bipartisan, plop, skyrocket, decelerate, methodically, electrostatically などが挙げられる。

★ 3 個は 0.01-0.099 回 (約 20%) となり、特殊な語で、専門用語や俗語的な形容詞や動詞が含まれる。例として merengue, amortizable, agglutinative, cutesy, teensy, emote, josh, recapitalize が挙げられる。★ 2 個は 0.099 回より少なく (約 45%)、多くの人が知らない語で、★ 1 はめったに使われない専門用語 (約 18%) である。★ 2 の例として decanate, geogenic, absterge, unwhigged, acicularly, whethersoever など、★ 1 の例として abaptiston, grithbreach, zarnich, zeagonite などが挙げられる。

2.2 複合形容詞の検索方法

OED Online の advanced search を使って、複合形容詞を抽出した。その手順は次の通りである。検索式はハイフンの数を手掛かりに *.* で 2 語基以上、*-*- で 3 語基以上、*-*-*- で 4 語基以上を抽出した。検索の対象は headword のみとし、品詞は形容詞に指定した。その他のフィルターは指定しなかった。検索結果はデフォルトではアルファベット順に表示されるので、それを頻度順と初出年順に並び替えたリストを分析に使用した。

2.3 2 語基以上の複合形容詞

OED3 における 2 語基以上で構成される複合形容詞のうち、頻度の高い上位 40 項目について、頻度の高いものから並べた検索結果 (左側) と文献での初出年の古いものから順に並び替えて表示したもの (右側) が次の表 2 である。

表2 見出し語複合形容詞の頻度とその初出年 (2 語基以上)

順位★		複合形容詞	品詞	初出年	初出年順	複合形容詞	順位
1	7	might-be	n, adj	1633	1425	well-known *	3
2	6	year-old *	adj, n	1556	1518	long-ago	17
3	6	well-known *	adj, n	a1425	1526	all-night	34
4	6	long-term *	adj, adv	1867	1551	well-defined	25
5	6	co-operative 接	adj, n	1603	1556	year-old *	2
6	6	can-do	n, adj	a1640	1559	well-established	26
7	6	make-up	n, adj	1817	1571	two-way *	19
8	6	carry-out	adj, n	1935	1579	do-nothing	40
9	6	go-back	adj, n	1839	1590	stand-up	38
10	6	short-term *	adj	1901	1592	old-fashioned *	36
11	6	one-way	adj, n	1620	1602	Anglo-Saxon 連	35
12	6	large-scale *	adj	1856	1603	co-operative 接	5
13	6	turn-over	n ² , adj	1605	1605	turn-over	13
14	6	co-ordinate 接	adj, n	1641	1616	seven-year seven year's *	18
15	5	take-up	n, adj	1825	1620	one-way	11
16	5	far-away	adj, adv, n	1816	1633	might-be	1
17	5	long-ago	n, adj	1518	1640	can-do	6
18	5	seven-year seven year's *	adj	a1616	1640	grown-up	29
19	5	two-way *	adj, n	1571	1641	co-ordinate 接	14
20	5	turn-out	n, adj	1688	1681	up-stream	33
21	5	X-ray	n, adj	1896	1688	turn-out	20
22	5	part-time *	adj, adv	1856	1809	long-range	39
23	5	set-aside	n, adj	1943	1816	far-away	16
24	5	socio-economic 連	adj	1883	1817	make-up	7
25	5	well-defined	adj	1551	1825	take-up	15
26	5	well-established	adj	1559	1833	present-day *	28
27	5	infra-red 接	adj, n	1881	1839	go-back	9
28	5	present-day *	adj	1833	1851	left-behind	31
29	5	grown-up	adj, n	a1640	1853	post-war 接	30
30	5	post-war 接	adj, n	1853	1856	large-scale *	12
31	5	left-behind	adj, n	1851	1856	part-time *	22
32	5	day-to-day *	adj, adv, n	1862	1862	day-to-day *	32
33	5	up-stream	adv (n) adj	1681	1867	long-term *	4
34	5	all-night	n, adj	1526	1881	infra-red 接	27
35	5	Anglo-Saxon 連	n, adj	1602	1883	socio-economic 連	24
36	5	old-fashioned *	adj (adv) n	1592	1896	X-ray	21
37	5	put-down	n, adj ²	1932	1901	short-term *	10
38	5	stand-up	adj, n	1590	1932	put-down	37
39	5	long-range	adj	1809	1935	carry-out	8
40	5	do-nothing	n, adj	1579	1943	set-aside	23

注：初出年の欄の a はおよその意味。接は接頭辞、連は連結形を表す。* は BNC の頻出複合形容詞リスト（西部：2015b）に含まれる語を表す。

2語基以上の見出し語の検索例の総数は（3語基が多少含まれるが）7613件であった。

なお、検索結果には連結形を含むものや接頭辞・接尾辞が構成要素になっている語も含まれている。接辞に関しては、その定義と該当する形態が段階的ではっきりと境界を定められないため、この表では多くの辞書で接辞とされてきた基本的な接辞を含む語に表示を付けた。また、BNCの頻出複合形容詞リスト48語（西部：2015b）に含まれている語には*を施した。

まず、*OED3*の見出し語複合形容詞40語の内の11語以外は、*BNC*での頻出複合形容詞（西部：2015b）ではない。辞典では、見出し語として編纂者が選択した語とその形式（ハイフン有無、sの有無など）で頻度を見ているため、実際のコーパスデータの中に出現した語の回数を見ていく結果とは一致しない様である。

表2の品詞に関して、「名詞」が最初に来ている語が多く、「名詞」でも「形容詞」でも使用されている語が多い（2.6参照）。つまり、形容詞の働きだけでなく、名詞での使用が顕著で頻度が高い、あるいは名詞として特筆すべき語義があるものが複合形容詞の見出し語に多く含まれている。コーパスの分析では、名詞の前に現れた限定用法の形容詞の働きをする例を純粹に抽出し、単独で名詞として機能する例は含まないため、このような差異が生じると考えられる。

なお、表2では品詞表示が「名詞」から始まるものは句動詞が多く、これらは名詞での用法が多いばかりでなく、ハイフンを使用しない2語が結合した綴りで表記されることも多い。*OED3*では別の綴りとして見出し語の後に記載されている。

表2の全体的な頻度を見ると、2語基の複合形容詞は頻度帯が7から5であり、日常的に使用される馴染みのある語彙である。頻度順の並び替え機能に関して、表2の通り、同じ頻度帯でもアルファベット順でもなければ初出年度順でもない並び方で出力されているところから、実際の*OED*のデータでは星の数だけではなく何らかの頻度数値が打ち込まれており、頻度順に見出し語が並べられるとわかる。また、ワイルドカードでは2語基以上で指定されるため、*day-to-day*は3語基であるが高頻度であり、この表に含まれることになった。

初出年に関して特筆すべき点は、1425年の文献に *well-known* の使用が確認されて以来、1500年代には *well-established* と *well-defined* が引用例で確認されている。「*well-*動詞過去分詞形」が複合形容詞として古くから出現していたことがわかる。

現時点での *OED3* は、改訂作業が終了した項目と完全には終了していない項目が混在しており、特に複合形容詞の記載を各々見ていくと、ばらつきが顕著である。従って、表2では改訂済みと改訂前が見出し語が混在した状態であり、今後削除あるいは追加される見出し語の複合形容詞も出てくるであろう。例えば表2の中の *seven year (s)* などは文字通りの意味しか持たず、植物が実を付けるまでの期間として使われていることが用例から

推測できるものの、*OED3* では語義に特別な解説を加えるのか、あるいは見出し語から削除されるのか、今後の対応が興味深い。

2.4 3 語基以上の複合形容詞

OED3 における 3 語基以上から構成される複合形容詞の頻度の高い上位 40 項目について、頻度の高いものから並べた検索結果（左側）と文献での初出年の古いものから順に並び替えて表示したもの（右側）が次の表 3 である。3 語基の複合形容詞の総数は 7572 であった。なお、表 3 の * は *BNC* の 3 語基頻出複合形容詞 20 語のリスト（西部：2015b）に含まれている語を示している。

表 3 の頻度帯は、5 と 4 で占められており、日常的に使用される語や認識できる語である。形式では「名詞 -to- 名詞」の構造で、同じ名詞が繰り返されるものが 4 分の 1 を占めて 10 語にも昇っている点が特徴的である。品詞を見ると、「副詞」の働きを含むものが比較的によく見受けられる（2.6 参照）。

初出年に関して、およそ 1000 年には *thick and thin* が記録されているが、これも名詞としての使用が一般的であると思われるので、代表的な複合形容詞と考えるのは難しい。名詞が名詞の前に来て限定的な形容詞の機能を果たすことはよく知られている現象であり、見出し語の名詞に *adj* の表示を加えるかどうかを決める基準が定めてあるのか、判断が難しい所である。初出年が古いものは、品詞表示が「名詞」で始まるものが多い (*thick-and-thin*, *mother-in-law*, *mother-of-pearl*, *so-and-so*, *good-for-nothing*) ことも特徴的である。

2.5 4 語基以上の複合形容詞

OED3 における見出し語で、4 語基以上から構成される複合形容詞 (= 多重複合形容詞) 28 項目を同様にまとめたのが次の表 4 である。なお、* は *BNC* の 4 語基頻出複合形容詞 36 語のリスト（西部：2015b）に含まれている語を示している。

見出し語となっている 4 語基以上の複合形容詞は、現時点では表 4 に示した 28 項目だけである。他の辞書（ランダムハウス英和辞典、ジーニアス大英和辞典、ウェブスター英語辞典）と比較すると、*OED2* では見出し語となっている 4 語基以上の複合形容詞は極めて少なかった（西部：2015a）。しかし、他の辞書では見出し語であるが *OED2* では見出し語ではなく、主たる語（下線部）の項目中に追記の様に記載されていた多重複合形容詞 (*state-of-the-art*, *seat-of-the-pants*, *go-as-you-please*, *touch-me-not-ish*) が、表 4 にある通り *OED3* では修正され、見出し語に採用されている。さらに、*OED3* で見出し語となっている *Sunday-go-to-meeting* は *OED2* では記載が見当たらなかった。従って、*OED3* では見出し語の多重複合形容詞は増える可能性が高いと考えられる。

多重複合形容詞の頻度は著しく低く、*out-of-the-way* の ★3 以外は 1 となっている。

表3 見出し語複合形容詞の頻度とその初出年 (3語基以上)

順位★		複合形容詞	品詞	初出年	初出年順	複合形容詞	順位
1	5	day-to-day *	adj, adv, n	1862	1000	thick and thin thick-and-thin	17
2	5	face-to-face *	adj, n	1833	1382	mother-in-law	3
3	5	mother-in-law	n, adj	a1382	1547	mother-of-pearl	18
4	5	up to date up-to-date *	adv, adj	1868	1556	head-to-head	36
5	5	one-to-one *	adv, adj, n	1581	1581	one-to-one *	5
6	5	well-to-do *	adj, n	1794	1594	two-year-old *	7
7	5	two-year-old *	adj, n	1594-5	1596	so-and-so	12
8	4	out-of-state	adj (n)	1898	1611	good-for-nothing	34
9	4	one-on-one	adv, n, adj	1860	1614	just-in-time	16
10	4	not-for-profit	adj, n	1913	1672	happy-go-lucky	35
11	4	point-to-point	adj, n	1875	1729	merry-go-round	14
12	4	so-and-so	n, adj, adv	1596	1737	ne'er-do-well	40
13	4	do-it-yourself *	adj, n	1910	1764	all-or-nothing	19
14	4	merry-go-round	n, adj	1729	1794	well-to-do *	6
15	4	person-to-person	adj, adv	1913	1799	devil-may-care	26
16	4	just-in-time	adv, n, adj	1614	1804	life-and-death	21
17	4	thick and thin thick-and-thin	n, adv, adj	a1000	1806	stay-at-home	24
18	4	mother-of-pearl	n, int, adj	1547	1826	hand-me-down	38
19	4	all-or-nothing	adj, n	1764	1833	face-to-face *	2
20	4	peer-to-peer	adj, n	1963	1860	one-on-one	9
21	4	life-and-death	adj	1804	1862	day-to-day *	1
22	4	all-or-none	adj	1864	1864	all-or-none	22
23	4	free-for-all	adj, n	1871	1868	up to date up-to-date *	4
24	4	stay-at-home	adj, n	1806	1871	free-for-all	23
25	4	tongue-in-cheek	adj, adv	1933	1873	know-it-all	39
26	4	devil-may-care	adj, n	1799	1875	point-to-point	11
27	4	made-to-order	adj	1902	1889	up-and-coming *	31
28	4	air-to-air	adj	1939	1898	out-of-state	8
29	4	larger-than-life	adj	1937	1902	made-to-order	27
30	4	slash-and-burn	adj (n)	1919	1909	mouth-to-mouth	37
31	4	up-and-coming *	adj	1889	1910	do-it-yourself *	13
32	4	surface-to-air	adj	1950	1913	not-for-profit	10
33	4	wall-to-wall	adj (n,adv)	1953	1913	person-to-person	15
34	4	good-for-nothing	n, adj	1611	1919	slash-and-burn	30
35	4	happy-go-lucky	adv, adj, n	1672	1933	tongue-in-cheek	25
36	4	head-to-head	adv, adj, n	1556	1937	larger-than-life	29
37	4	mouth-to-mouth	adj, n	1909	1939	air-to-air	28
38	4	hand-me-down	adj, n	1826	1950	surface-to-air	32
39	4	know-it-all	n, adj	1873	1953	wall-to-wall	33
40	4	ne'er-do-well	n, adj	1737	1963	peer-to-peer	20

注：初出年の欄の a はおよその意味。* は BNC の頻出複合形容詞リスト (西部: 2015b) に含まれる語を表す。

表4 見出し語複合形容詞の頻度とその初出年 (4 語基以上)

順位★		複合形容詞	品詞	初出年	初出年順	複合形容詞	順位
1	3	out-of-the-way *	adj,adv,n	1675	1675	out-of-the-way *	1
2	1	all-of-a-piece	adj	1738	1738	all-of-a-piece	2
3	1	all-you-can-drink	adj	1968	1812	put-up-able-with	18
4	1	all-you-can-eat	adj, n	1940	1816	how-come-ye-so	11
5	1	balls-to-the-wall	adj (adv)	1967	1831	Sunday-go-to-meeting	26
6	1	do-as-you-please	adj	1845	1832	stick-in-the-mud	25
7	1	get-up-and-get	n, adj	1865	1838	see-and-be-seen	21
8	1	get-up-and-go	n, adj	1871	1840	take-it-or-leave-it	27
9	1	go-as-you-please	adj, n	1878	1845	do-as-you-please	6
10	1	he-said-she-said	adj, n	1944	1865	get-up-and-get	7
11	1	how-come-ye-so	adj	1816	1871	get-up-and-go	8
12	1	know-all-about-it	adj	1887	1878	go-as-you-please	9
13	1	live-and-let-live *	adj, n	1885	1885	live-and-let-live *	13
14	1	melt-in-the-mouth *	adj	1910	1887	know-all-about-it	12
15	1	now-it-can-be-told	adj	1932	1889	penny-in-the-slot	16
16	1	penny-in-the-slot	adj, n	1889	1895	touch-me-not-ish	28
17	1	plug-in-and-go	adj	1980	1910	melt-in-the-mouth *	14
18	1	put-up-able-with	adj	1812	1932	now-it-can-be-told	15
19	1	put-up-or-shut-up	adj	1940	1935	seat-of-the-pants	20
20	1	seat-of-the-pants	adj	1935	1939	side-of-the-mouth	23
21	1	see-and-be-seen	adj	1838	1940	all-you-can-eat	4
22	1	shoot-from-the-hip	adj	1967	1940	put-up-or-shut-up	19
23	1	side-of-the-mouth	adj	1939	1944	he-said-she-said	10
24	1	state-of-the-art *	adj, n	1955	1955	state-of-the-art *	24
25	1	stick-in-the-mud	adj, n	1832	1967	balls-to-the-wall	5
26	1	Sunday-go-to-meeting	adj, n	1831	1967	shoot-from-the-hip	22
27	1	take-it-or-leave-it	adj, n	1840	1968	all-you-can-drink	3
28	1	touch-me-not-ish	adj	1895	1980	plug-in-and-go	17

注：*はBNCの頻出複合形容詞リスト（西部：2015b）に含まれる語を表す。

また、品詞を見ると、4語基以上の複合形容詞では「形容詞」の表示しかないものが極めて多い。

初出年を見ると、2・3語基の複合形容詞と比べて4語基では年代が遅い。もっとも古いものでも、1675年のout-of-the-wayであり、多くが1800年代以降に登場し、動詞で始まる構造が多いことがわかる。多重複合形容詞が、英語の現象として遅く登場した、あるいは辞典の編纂者が多重複合形容詞を見出し語として承諾しなかったなどの可能性が考えられよう。

2.6 品詞

前節 (2.3、2.4、2.5) の表 2-4 では、*OED3* で見出し語となっている複合形容詞について考察した。本節ではこれらの表の品詞表示に着目して語基数別に品詞の分布を分析する。次の表 5 は品詞の分布を数値化してまとめたものである。

表 5 が示す通り、品詞の組み合わせのパターンが多いのが 3 語基の複合形容詞で 12 種類となっているのに対し、2 語基では 6 種類、4 語基以上は最小となり 5 種類しかない。

それぞれの語基数の見出し語の中で、品詞表示が「形容詞」のみの割合は、2 語基と 3 語基では 20% 前後であるが、4 語基以上になると約 54% となっている。また、最初に「名詞」の表示がある項目の割合は 2 語基で 32.5%、3 語基で 20.0%、4 語基で 7.1% と減少傾向にある。また、順を問わず「名詞」の表示が含まれている割合は 2 語基と 3 語基が 75% であるのに対して 4 語基では約 43% となっている。これらの結果から、4 語基以上の見出し語には純粋な複合形容詞が多く含まれ、他の品詞の機能を果たすものが少ないが、2 語基では「名詞」としての複合語が多く含まれていることがわかる。

また 3 語基については「副詞」が最初の品詞表示であるものが 15% におよび顕著である。また、「副詞」の表示を含む割合は、2 語基で 15%、3 語基で 30%、4 語基で約 7% であることから、3 語基で「副詞」の働きをする語が見出し語に多く採用されている傾向が見取れる。

表 5 *OED3* の見出し語複合形容詞の品詞

品詞表示	2 語基		3 語基		4 語基	
adj	8	20.0%	7	17.5%	15	53.6%
adj n	13	32.5%	15	37.5%	9	32.1%
adj adv	2	5.0%	2	5.0%	1	3.6%
adj adv n	3	7.5%	1	2.5%	1	3.6%
adj n adv			1	2.5%		
n adj	13	32.5%	5	12.5%	2	7.1%
n adj adv			1	2.5%		
n adv adj			1	2.5%		
n int adj			1	2.5%		
adv adj			1	2.5%		
adv adj n			3	7.5%		
adv n adj	1	2.5%	2	5.0%		
total	40	100.0%	40	100.0%	28	100.0%
n で始まる	13	32.5%	8	20.0%	2	7.1%
n を含む	30	75.0%	30	75.0%	12	42.9%
adv で始まる	1	2.5%	6	15.0%	2	7.1%
adv を含む	6	15.0%	12	30.0%		

3. 多重複合形容詞の記述

4 語基 (以上) から構成される、いわゆる多重複合形容詞は、*OED2* では記載形式が

様々であることを先行研究（西部：2015a）で指摘した。*OED2* では、見出し語の *up to the minute* はハイフンなしでスペースを取り、*state-of-the-art* は、見出し語 *state* の項の中でハイフン付の複合形容詞として用法と引用が記載されていた。また *middle-of-the-road*, *out-of-the-way*, *spur-of-the-moment* はハイフン付きで見出し語となり、複合形容詞の句として品詞表示があった。これらの語義項目の下位には、語尾が変化した派生語（*out-of-the-wayness*, etc.）が *Hence* という語に続いて記載されていた。派生語が数種類認められる複合形容詞が、ハイフン付きで見出し語に採用されていることを西部（2015a）で提案した。

この先行研究で取り上げた次の5つの多重複合形容詞が、*OED3* ではどのように記載されているのか見てみよう。その記載方法を *OED2* と比較して表6にまとめた。

表6 多重複合形容詞の記載方法

<i>OED2</i>	<i>OED3</i>
<i>middle-of-the-road</i> (見出し語)	<i>middle of the road</i> (見出し語) [2002 fully updated]
<i>out-of-the-way</i> (見出し語)	<i>out-of-the-way</i> (見出し語) [2004 fully updated]
<i>spur-of-the-moment</i> (見出し語)	<i>spur-of-the-moment</i> (<i>spur</i> の下位語句) [not yet fully updated]
<i>up to the minute</i> (見出し語)	<i>up to the minute</i> (見出し語) [not yet fully updated]
<i>state-of-the-art</i> (<i>state</i> の下位語句)	<i>state-of-the-art</i> (見出し語) [2012 fully updated]

明らかに変更された点が2つ挙げられる。まず、*middle-of-the-road* は見出し語に残留しているが *OED3* ではハイフンが取られている。そして、*state-of-the-art* が見出し語として新たに採用されている点である。確定はしていないが、*spur-of-the-moment* は見出し語から削除されて、*spur* の項目に付随する形で記載され、格下げされている。

複合語の扱い方に関しては、*OED2* の序文の中の *General Explanation* (OUP: 2008) に編纂の方針が明記されている。複合語を記載するために3種類の区別がなされていて、それらは、1) それぞれの語の意味が維持されていて、その組み合わせの関係が通常の文法範疇に収まるもの、2) それぞれの語の語義が合わさって幾分は特別な意味を表すが、依然として派生語として関連付けができ、数語で簡単に説明できるもの、3) 意味が特殊で完全な複合語となっている組み合わせ、多様な意味で用いられる組み合わせ、あるいは長い歴史がある組み合わせであり詳細な説明が必要なもの、となっている。1) は各々の語の記載の最後にイタリック体で記載され、そのあとに少数の引用例がまとめて掲載され、2) は主たる語の記載項目の中の最後にアルファベット順に小さく太字で表記されて簡潔に説明され、1) よりは数多くの引用例が載せられている。3) は主たる語の記載欄の最後に小さめのフォントの大文字表記で羅列され、さらに見出し語と同様の扱いがなされ、アルファベット順に項目が設けられている。

これに対して *OED3* の序文 (OUP: 2018d) にある *headwords and the selection of entries* の節では、「多くの複合語と派生語は過去の版では主たる語の下に入れ子の様に組み入れら

れていたが、現在では独立した見出し語の資格が与えられている」と述べられており、より多くの複合形容詞が見出し語に採用されていくのは確実である。

では、実際の記載内容を *OED2* と *OED3* で比較してみよう。次の (1) と (2) は *middle-of-the-road* の記載で、発音・語源・文例は除いた。なお、下線は筆者が差異を際立たせるために施した。

(1) *OED2* (1989):

middle-of-the-road

1. **Phr., often used attrib. or quasi-adj.**, pertaining to or designating a person who, or a course of action, etc., which, is moderate or unadventurous, tending to avoid extremes; orig. spec. in U.S. with reference to the views of the Populist party.
2. Of (usu. popular) music: avoiding extremes of volume, beat, etc., so as to appeal to the widest possible audience; deliberately unadventurous and inoffensive; mediocre. Abbrev. MOR s.v. M 6
Hence **middle-of-the-roader**.

(2) *OED3* (2002 fully updated):

middle of the road, n. and adj.

A. n.

A moderate or unadventurous policy or course of action; middle-of-the-road music.

B. adj. Usually in form middle-of-the-road.

1. Originally (U.S. Politics) : relating to or designating moderate supporters of the Populist party. Now: relating to or designating a person, course of action, etc., that is moderate or unadventurous; tending to avoid extremes; average, typical; moderate, mediocre.
2. Of music: appealing to a wide audience; undemanding; *spec.* designating popular music that has melody and harmony and avoids harsh or extreme sounds, with the implication of blandness (abbreviated *MOR*).

OED2 では (1) にある通り、Phr. (句) という表記があり、attrib で限定用法の複合形容詞であることを示していた。ハイフンで語基を繋ぎ、派生語を記載内容の最後に付け加えている。対して、*OED3* では (2) の様に、見出し語の横に品詞を羅列して、記載項目にあるすべての品詞を表示している。*OED3* では *middle of the road* の品詞表示は「名詞」で始まっており、後続の見出し語には *middle-of-the-roader* と *middle-of-the-roadness* が新たに追加されている。このことから、名詞の機能を第一に優先してハイフンを外した形で見出し語にし、その記載内容の2番目の用法 B として、ハイフンで繋いだ形容詞を載せる

という方法に変更している。

次に、out-of-the-way の改訂について (3), (4) を見てみよう。

(3) OED2 (1989):

‘out-of-the-’way, adj. phr.

[The advb. phrase out of the way (see out of prep. phr. III and way n.) , used attrib.]

A. adj. phr.

1. Remote from any great highway or frequented route; remote from any centre of population, unfrequented, secluded. 2. ...3. ...

Hence **‘out-of-the-’ wayness.**

B. as adv. Oddly; exceptionally, extraordinarily.

C. as n. A remote spot, an out-of-the-way place.

(4) OED3 (2012 fully updated):

out-of-the-way, adj., adv., and n.

A. adj.

1. Seldom met with, unusual; odd, peculiar, remarkable. 2. ...3. ...

B. adv.

Oddly; exceptionally, extraordinarily.

Used to modify adjectives and verbs. For phrasal adverb uses and predicative use, see way n.1 and int.1 Phrases 2h.

C. n.

A remote spot; an out-of-the-way place. rare.

OED2 の (3) では *adj. phr.* という表記が見出し語の横にあるが、B, C の項目では「副詞」、「名詞」の用法が記載されている。先の (1) の見出し語の直後には品詞表示がないので、OED2 では一貫性に欠ける表記法であることがわかる。OED3 では (4) の様に、項目を立てた品詞は見出し語の直後に (おそらくは全て) 表示されており、品詞表示の方法を統一したことがわかる。派生語に関しては、OED2 の (3) では (1) と同様の方法で、項目 A の最後で out-of-the-wayness を挙げている。しかし OED3 ではこの派生語の記載はなく、(2) の場合とは異なり見出し語にも採用されていない。

また、OED2 の見出し語の大半は、ハイフンで結ばれた複合形容詞に *adj, phr.* という品詞表示があった。しかし *phr.* という表示は (2) と (4) でも明らかかなように、OED3 では廃止されている。

さらに (4) C では *rare* という頻度に関する記述が加えられていることにも注目したい。*OED3* では、現代英語の分析に基づき *rare* (珍しい) という表記を加えた個所が *OED2* の 242 % に上っている (OUP: 2018d)。全体的に見て、やはり *OED3* では一貫した見易さとわかり易さに配慮した記載方法に変更していると言えよう。

4. おわりに

OED3 は現在も全面改訂作業の真ただ中である。本研究は 2018 年 12 月現在の online 版上の記載に基づいた報告と分析である。既述の通り、*OED3* では複合形容詞の扱いを精査しており、また見出し語として多重複合形容詞を追加していくと思われる。複合形容詞は、現代では増加傾向にあり、*OED3* がそれにどう対応していくのか、編纂チームの手腕が問われている。目下の online 版で年 4 回の更新という方法は、まさに英語の変化に対応できる辞典の編纂方式である。

参考文献

- Oxford University Press (2008) General explanations. In Preface to the Second Edition, 1989. Retrieved from <http://www.oed.com/archive/oed2-preface/gen-combinations.html>.
- (2018a) *Oxford English Dictionary Online*. Available from <http://www.oed.com/>
- (2018b) How to Use the *OED*. Retrieved from <https://public.oed.com/how-to-use-the-oed/>
- (2018c) Key to frequency. Retrieved from <https://public.oed.com/how-to-use-the-oed/>
- (2018d) Preface to the Third Edition of the *OED*. Retrieved from <https://public.oed.com/history/oed-editions/preface-to-the-third-edition/>
- (2018e) Updates to the *OED*. Retrieved from <https://public.oed.com/updates/>
- 西部真由美 (2015a) 「英語・米語コーパスと英語辞典における多重複合形容詞」『文明 21』第 34 号 . pp. 41-50. 愛知大学国際コミュニケーション学会
- (2015b) 「複合語の分析：限定用法の複合形容詞の場合」『コーパスと英文法・語法：英語コーパス研究シリーズ 4』深谷輝彦・滝沢直宏編 . pp. 41-70. ひつじ書房
- Simpson, John and Edmund Weiner (Eds.) (1989) *Oxford English Dictionary, 2nd Edition*. Clarendon Press.
- Simpson, John (2000) Preface to the Third Edition of the *OED*. Retrieved from <https://public.oed.com/history/oed-editions/preface-to-the-third-edition/#revised>
- (2009) *Oxford English Dictionary, 2nd Edition*, Version 4. (CD-ROM) Oxford University Press.